

Money meets the Int

ウォール街はインターネットを、どう評価しているのか？

執筆 エリック・ガワー + 榊山 寛
Eric Gower Masuyama



個人投資家の観点からインターネットを
考える「Money meets the Internet!!」
今回は、IBM やオラクルなどの
大企業を退けて、eビジネスの
基幹ソフトシェアのナンバーワンとなった
BEAシステムズを取り上げる。

本記事は特定企業への投資を勧誘するものではありません。
資産運用は目的を持って自己責任で行ってください。



エリック・ガワー

Eric Gower

投資家、ライター。1961年米国ペンシルバニア生まれ。カリフォルニア大バークレー校卒。主な著書に『日本は金持ち。あなたは貧乏。なぜ?』（毎日新聞社）がある。

Chapter

インターネットの「ウィンドウズ」を目指すBEAシステムズ

eビジネスには「OS」が必要

インターネットにはOS（オペレーティングシステム）があるのだろうか？

現在のインターネットの状況は、パソコンのハードごとにOSが異なり、それぞれが業界標準を目指していた80年代中期に、いろいろな意味で似ていると思う。そのレースの勝者はもちろんマイクロソフトだ。ほとんどの人はネットサーフィンにパソコンとウィンドウズを使っている。しかし目的のサイト自体は、多くのレイヤーからなる、異なったプラットフォーム上で稼働しているのだ。そして、この分野を支配する企業は、いまだに出現していない。

その地位への力強い候補者は、ウォール街の見るところ、カリフォルニア州サンノゼ市のBEAシステムズだ（Nasdaq：BEAS）。CEOであり共同創業者でもあるビル・コールマンは、1993年というインターネットにとってはジュラ紀のような時代に、eビジネスには自前のOSが必要だということに気付いた最初の人間の1人だ。「このマーケットはウィン

ドズのそれとまったく同じ性格を備えている。勝者がビッグになるのだ。そして、顧客は我々に賭けている」とコールマンは最近のスピーチで語った。彼が言うウェブにおけるウィンドウズに相当するものは、「アプリケーションサーバー」と呼ばれるものだ。これはハードウェアではなく、ウェブのトラフィック

を管理するソフトウェアだ。といってもウェブサイトを構築するだけのツールではない。

アプリケーションサーバーは、個別のアプリケーションとサーバーOSの間に置かれ、いわば「準OS」的な役割を担うのだ。eビジネスでは、多くのソフトウェアやデータベースが使われるが、これまではトラフィックの状

BEAシステムズ【BEAS】

1995年に設立されたBEAシステムズ（BEAS）は“OSとアプリケーションの間”という意味の「ミドルウェア」を特徴とするビジネスソフトの開発と販売を行う会社だ。現在では、ミドルウェアから範囲を広げ、自らをeコマースの「トランザクションプラットフォーム・カンパニー」と位置付けている。1999年、2000年と連続して「アプリケーションサーバー」部門のトップシェアを確保した。おもなユーザーには、アマゾン・コム、フェデックス、ユナイテッド航空などがいる。1996年には日本法人も設立した。



Data

本社	米国カリフォルニア州
設立	1993年
代表者	William T. Coleman, (CEO)
株式取引市場	NASDAQ
Ticker Symbol	BEAS
分類	Business Software & Services
株価	65.94ドル
時価総額	253億5,329万3,000ドル
発行株数	3億8,450万2,000株

www.beasys.com

www.beasys.co.jp 日本法人

2001年4月5日現在

BEA システムズの株価とNASDAQ 指数の騰落率



BEAシステムズ上場日（1997年4月）を「100」として騰落率をグラフにまとめたもの。

況変化に応じて多くの部分を書き換える必要があった。しかし、アプリケーションサーバーは、ユーザーが10人でも1000万人でも変わらずに動くよう設計されているため、ビジネスが成長してトラフィックが急激に増加しても、高価なソフトウェア技術者チームを雇う必要がないのだ。最大の魅力は、その「拡張性」にある。

アマゾン・コムの情報担当重役リック・ダルゼルは99年にBEAのソフトを導入するにあたって、次のように述べている。「それは、我々が顧客に満足を与えるための、スケラブルかつ頑丈、しかも高いパフォーマンスを提供してくれるシステムだ」。米調査会社の

ギガインフォメーショングループによれば、アプリケーションサーバーのマーケットは、今後数年で爆発的に拡大する可能性があり、2000年度の16億ドルから、2003年には90億ドルになると予測されている。

「我々はすでに勝っている」

そして、コールマンCEOによれば、パソコンのアプリケーションが、その進化とともに業界標準の必要性を増していったように、ウェブの進化も標準を必要とするようになるのだ。コールマンは言う。「重要なのは、マーケ

ットが必ずデファクトスタンダードを必要とするということであり、我々は勝利したのだ」

彼の自信には根拠がある。BEAは、もっとも近い競合他社であるIBMの2倍以上の顧客を抱えている。また、フラッグシップ製品である「ウェブロジック」の上にアプリケーションを開発する膨大な数のソフトウェアベンダーがいるのも強みだ。ネットワークの効果が発揮され、BEA製品のユーザー増が加速し、ついには業界標準として誰もが使いたがるような臨界点に達するという可能性は十分にある。

この自己永続サイクルは1つの会社を業界の覇者にまで押し上げることがある。マイクロソフト、シスコ、eペイという卓越した3社

BEA システムズに対する見解

BULL

- ・トップシェアの企業が独走するマーケットモデル。
- ・拡大するマーケット。

BEAR

- ・IBM、オラクル、マイクロソフトなどによる追随。
- ・eビジネスそのものの停滞。



BULLは「強気」、BEARは「弱気」を意味する。

Money meets the Internet!!

ウォール街はインターネットを、どう評価しているのか？

は、ネットワークの効果が、いかに一企業を強大な「ゴリラ状態」へと急進させるのかというよい見本である。BEAは、すでにあるリードの幅をさらに拡大すべく、その製品に機能を付加し続けている。

ナスダックの、ほぼすべてといってもいいハイテク企業と同じように、昨年来のハイテクへの弱気相場（ベアマーケット）が、BEAの表皮の大きな部分を剥ぎ取ってしまった。昨秋の89ドルから、3月末には20ドル台中盤まで下がっている。しかし、BEAは収益の減速どころか、2月の報告では見通しを上方修正させている数少ないハイテク銘柄なのだ。その報告でコールマンは、景気の減速に伴う企業のITハード投資削減の中で、実際はBEAが販売するようなソフトインフラへの投資は増えていると述べた。またBEAは、歴史的なレベルの受注数を抱え、アプリケーションサーバーのソフトへの需要が増すことによって、今後の数四半期の見通しは「クリスタルクリア」だとも語ったのだ。

印象的な数字をもう少し挙げておこう。BEAは、21期連続して前四半期を上回る収益を上げている。同社は、歴史上もっとも早く10億ドルの年間収益レートに到達した企業でもある（実際の年間収益は、まだ10億ドルに達していないが、2001年の第四四半期が2.5億ドル以上である）。また、ASP（アプリケーションサービスプロバイダー）やSI（システムインテグレーター）、独立系ソフトウェアベンダーといったパートナー群は1500社以上であり、少なくとも毎月100以上は増え続けている。

弱気相場でも高いプレミアム

現在のような暗いマーケット状況においても、BEA株は収益の734倍という天文学的な値で取引されている。毎日のように続く熊

BEA システムズの業績と株価の推移

		1999年度		2000年度		
		10月期(3Q)	1月期(4Q)	4月期(1Q)	7月期(2Q)	10月期(3Q)
業績	売上げ	1億2,650万	1億4,920万	1億5,370万	1億8,600万	2億2,400万
	収益	10万	-1,370万	-1,270万	230万	820万
株価	高値	11.59	47.50	78.88	62.50	89.50
	安値	5.25	11.45	25.50	29.38	41.00

単位：ドル

（弱気相場）の大騒ぎでは、もっとも信頼でき、かつ収益性のある銘柄が、その価値よりもかなり低い値段に下がってしまっている状況だ。そんななかでBEAは、とんでもなく高いプレミアムと言えるだろう。株価と売上げの比率であるP/S値が15（通常は1以上が高いとされる）、PEG値が4（これも1以上が、特に弱気相場のときは高いとされる）という数字は、ほんのちょっとした変化が現在のような陰気につながる相場においても、株価の大幅な上下を引き起こすことを示唆する。

さらに興味深いのは、マイクロソフトやIBM、オラクルがBEAに狙いを定めていることだ。オラクルのCEOであるラリー・エリソンは、BEAのアプリケーションサーバーから

オラクルに乗り換えた顧客で、オラクルのほうが処理速度が3倍早いことがわからなければ100万ドルを提供するとしている。この3社はBEAよりも桁違いに巨大な企業だ。そして彼らは皆アプリケーションサーバーのマーケットの重要性に気付いているのだ。

しかし、コールマンは心配していない。「今後5年以内にBEAは、収入、時価総額、利益において世界の3大ソフト会社になる。ゲームはすでに終わっている」と述べたのだ。我々はその経過を見守ろう。しかし約束どおりBEAのソフトが、主要なすべてのウェブアプリケーション構築の標準となれば、今日の株価は素晴らしいバーゲンセールだったと呼ばれるだろう。

Back Number Index

『Money meets the Internet 第3部』では、過去に取り上げた企業（銘柄）のトラッキングも行っていく。この記事は銘柄の推奨記事ではないが、記事で取り上げたあとでその企業の株価がどのように動いたのかがわかるだろう。なお、第2部までの過去の記事はウェブサイトにも公開しているので、見逃した方はご覧になりたい。

[Jump internet.impress.co.jp/moneymeets/](http://jump.internet.impress.co.jp/moneymeets/)

掲載号	企業名 (Ticker)	掲載時の株価	4月5日現在	騰落率
00年11月号	サンディスク (SNDK)	90.06	20.38	-77.37%
00年12月号	グローバルスター (GSTRF)	7.81	0.29	-96.28%
01年01月号	ヒューマン・ゲノム・サイエンス (HGSI)	96.00	44.31	-53.84%
01年02月号	ジェムスターTVガイド (GMST)	45.63	28.50	-37.54%
01年03月号	チェックポイントソフトウェア (CHKP)	120.56	48.69	-59.61%
01年04月号	インフォスペース (INSP)	5.13	2.50	-51.26%
01年05月号	シーベル・システムズ (SEBL)	33.63	28.76	-14.49%

単位：ドル



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp